

付 表

図2-1～2-6及び図2-8～15のもととした事象別データベース。「頁」は武者(1951)の史料集の原文献所載ページ数である。現代地名は必ずしも近年の大合併を考慮していない。

文献名	頁	地点名、事項	現代地名	震度現象
続地震雑纂・上州山田郡の人参宮之話	146	上州辺は老人も覚えぬ程の地震	群馬県山田郡	4
大屋祐義日記	88	江戸浜町秋元家中屋敷、地震夥し	浜町	4
大屋祐義日記	88	江戸浜町前川あふれ出る、	浜町	津波
大屋祐義日記	88	丸の内南部侯御屋敷長屋崩	江戸丸の内南部藩邸	6-
大屋祐義日記	88	呉服橋途中河内守屋敷前河の水街路に溢れる	呉服橋付近	津波
続地震雑纂・憂北生伊豆下田よりの書状	137	江戸城大手の石垣、30間ばかり潰。南部藩邸玄関潰5000-6000両の損害。阿部辰口藩邸1000両の損害、会津藩邸5000両の損害、松平紀伊守藩邸1500-1600両の損害、高松邸1000両の損害	江戸	5-
大屋祐義日記	88	小田原、城内、侍屋敷、破損所潰家有り	小田原	5+
続地震雑纂・東海道大地震実記・江戸下谷太田橋平筆記、井上伝太夫写	128	小田原、町中へ小屋こしらえ住居。家損じはなし。裏屋のあばらや二、三軒倒れ。虎屋藤右衛門土蔵壁少々はげ落ち。	小田原	5-
地震海嘯正説録	155	小田原宿以东は格別の義もこれなし	小田原	4
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	湯本小田原同様、強く揺れども家損はなし。	湯本	5-
大屋祐義日記	88	箱根関所、多少破損、関所業務に支障なし、往還通行差し支え無し	箱根	5-
安田賤勝筆記	115	箱根宿前後とも無難	箱根町	4
安田賤勝筆記	115	箱根宿中程笹屋のあたり軒別に倒れ	箱根宿	6+
安田賤勝筆記	115	箱根宿三島町大和屋向かい木村屋の一軒だけ無難。少しの傾きも無し。	箱根宿三島町	6+
安田賤勝筆記	115	箱根宿妙見町無難	箱根宿妙見町	5-
安田賤勝筆記	115	箱根宿岡本町より西方八分通り潰	箱根宿岡本町より西方	6+
安田賤勝筆記	115	箱根関所少々破損。御役人仮小屋に詰合。	箱根関所	5+
安田賤勝筆記	115	新屋さしたること無し	新屋	5-
安田賤勝筆記	115	畑宿さしたること無し	畑宿	5-
安田賤勝筆記	115	畑宿側登り路、ときどき山崩れ有り。さしたること無し。	東海道箱根・小田原間	5+
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	箱根山筋、大小の石峰より落ち。道中支障なし。	箱根山道	5-
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	箱根宿。本陣三軒潰。その他建物残らず大破損。	箱根宿	6-
続地震雑纂・東海道之次第開書之実説	130	箱根、御関所崩。宿内九分通り潰れ。本陣三軒とも本潰。	箱根	6+
書付留	78	信州高遠城内住居損所数カ所、櫓傾損塀、門、侍屋敷、長屋破損所夥し	高遠	5+
御城書	86	信州松本、3000両拝借	松本	5+
御城書	87	松代、城内住居焼失、領内変災、警護疲弊につき10,000両拝借	松代	
大屋祐義日記	89	信州松代、城内塀櫓など所所破損、	松代城	5+

文献名	頁	地点名、事項	現代地名	震度現象
続地震雑纂・上州山田郡の人参宮之話	146	松代城下は潰家これ有り。	長野市松代	5+
虫倉後記	281	松代、城内戸障子はずれず。	長野市松代城	4
虫倉後記	281	岩崎五郎大輔邸門続きの塀一円押し倒し。恩田新六邸門壁落ち、真田志摩の玄関大痛、塀の倒れは所所にみえし。	長野市松代	5-
虫倉後記	293	松代城大御門斜、同所東小堀瓦落、など	松代城	5-
虫倉後記	293	松代長国寺本堂庫裏禅堂衆寮御霊屋に被害	松代長国寺	5-
虫倉後記	293	松代大英寺御霊屋	松代大英寺	5-
虫倉後記	294	松代町方皆潰73、半潰53、大破22、中破8、小破6	松代	6-
虫倉後記	281	松代潰家42軒	長野市松代	5+
大屋祐義日記	89	松代城下、家中屋敷城下町潰家数多、死人怪我人有り	松代城下	6+
続地震雑纂・高崎堅造信州松本より自宅宛書簡	143	松本城下大方家潰れ、中町通魚の棚、残らず焼失。350-360軒焼失。火元で死5。	松本	6+
温恭院日記	277	信州松本、陣屋向き家中町郷共破損	松本	5-
虫倉後記	285	松本城内二之丸石垣20間ほど大崩。御櫓二カ所大破。御家中17-18カ所ほども潰。御家中死怪我無し。町屋中町一橋新小路の三カ所で100軒ほども潰候上焼失	松本	6-
続地震雑纂・高崎堅造信州松本より自宅宛書簡	143	(松本) 自治方離れ座敷七八分潰。おもやは七八寸も柱傾き候。	松本	6
続地震雑纂・幸福氏家来甲府伊勢舎より書状、11月10日出	143	切石宿大騒動。荷物継ぎ立ては出来ず。善妙寺に宿泊。	切石	5-
続地震雑纂・上州山田郡の人参宮之話	146	善光寺はさほどのことはこれなし。	長野	4
続地震雑纂・高崎堅造信州松本より自宅宛書簡	143	木曾福島大地震。近年覚えず。	木曾福島	4
続地震雑纂・高崎堅造信州松本より自宅宛書簡	143	木曾福島大地震。近年覚えず。	木曾福島	4
続地震雑纂・上州山田郡の人参宮之話	146	木曾街道は余程強くこれ有り候か小屋を造り地震を避けおり候	木曾福島	5-
虫倉後記	284	上五明村西教寺庫裏半潰、廊下潰	信州上五明村	5+
虫倉後記	284	力石村妙法寺本堂大破	信州力石村	5+
虫倉後記	284	上越道村政右衛門宅崖崩れ下敷きとなる	信州上越美智村	5+
虫倉後記	284	中之条村居家潰2、物置潰2、居家物置半潰12、座敷損、	信州中之条	5+
虫倉後記	285	下の条村諏訪宮拝殿潰、居家5,6軒潰	信州下の条	6-
虫倉後記	285	保野村10軒潰	信州保野村	6-
虫倉後記	285	五加村13軒ほど潰	信州五加村	6-
虫倉後記	285	手塚村4,5軒ほど潰	信州手塚村	5+
虫倉後記	292	信州諏訪高遠、両城とも強く震、大破に及ぶ。	高遠城	5+
虫倉後記	292	信州諏訪高遠、両城とも強く震、大破に及ぶ。	諏訪城	5+
大沼氏記録	308	大地震町内残らず往還へ出る。南町問屋藤田屋土蔵落ち。	伊那市赤穂	5-
御城書	87	飯田、住居櫓多門その他大破石垣崩所も有り、1000両拝借	飯田	5+
近世郷土年表・飯田世代記	308	金300両飯田町へ下付。池田町で死2。	飯田	5+
安田賤勝筆記	114	甲府柳町悉く潰	甲府柳町	7
安田賤勝筆記	114	八日市場悉く潰	八日市場	7
続地震雑纂・幸福氏家来甲府伊勢舎より書状、11月10日出	143	鰻沢、とりわけ大震にて、八分通り潰。	鰻沢	6+
続地震雑纂・幸福氏家来甲府伊勢舎より書状、11月10日出	143	青柳辺は格別のことはなし。	青柳	5-

文献名	頁	地点名、事項	現代地名	震度現象
続地震雑纂・幸福氏家来甲府伊勢舎より書状、11月10日出	143	大門の先、和泉通り震倒れ甚だしく	市川大門の先和泉通り	6+
続地震雑纂・幸福氏家来甲府伊勢舎より書状、11月10日出	143	加々美法善寺の前、2間四方ばかり青泥を吹き出す。	加々美	6+
続地震雑纂・幸福氏家来甲府伊勢舎より書状、11月10日出	143	加々美法善寺は土蔵こやのひがいろいろですんだ。	加々美	5+
続地震雑纂・幸福氏家来甲府伊勢舎より書状、11月10日出	143	加々美、中条は7分通り倒れ。	加々美中条	6+
続地震雑纂・幸福氏家来甲府伊勢舎より書状、11月10日出	144	甲府柳丁2丁目、八日町、魚町通り大震。土蔵は無事なもの無し。取分ケ升太等は土蔵九カ所半潰	甲府柳町二丁目	6-
続地震雑纂・幸福氏家来甲府伊勢舎より書状、11月10日出	144	甲府柳丁2丁目、八日町、魚町通り大震。土蔵は無事なもの無し。取分ケ升太等は土蔵九カ所半潰	甲府八日町	6-
続地震雑纂・幸福氏家来甲府伊勢舎より書状、11月10日出	144	甲府柳丁2丁目、八日町、魚町通り大震。土蔵は無事なもの無し。取分ケ升太等は土蔵九カ所半潰	甲府魚町	6-
続地震雑纂・幸福氏家来甲府伊勢舎より書状、11月10日出	144	甲府近習町通りより上は無難。当邸も棟瓦など震落位であった。	甲府魚町	5-
地震海嘯正説録	155	甲府、八日町通、一丁目震崩れ。二丁目中程まで同様。魚町中程まで、二丁目西側大半崩れ、山田町一丁目柳町一丁目より四丁目まで潰家これあり。	甲府八日町、魚町	6+
地震海嘯正説録	155	甲府、連尺町一丁目は荒潰	甲府連尺町一丁目	6+
地震海嘯正説録	155	甲府、八日町通、一丁目震崩れ。二丁目中程まで同様。魚町中程まで、二丁目西側大半崩れ、山田町一丁目柳町一丁目より四丁目まで潰家これあり。	甲府山田町、柳町	6-
地震海嘯正説録	155	甲府、片羽町より西の方、無事	甲府片羽町以西	4
地震海嘯正説録	156	戸田村、皆潰	山梨県	7
地震海嘯正説録	156	今福新田、潰家4軒、釜無川堤割崩	山梨県	6-
地震海嘯正説録	156	下大鳥居村、悪水川押し潰、潰家有り。	山梨県	土石流
地震海嘯正説録	157	上野村、悪水川押しつぶし、潰家有り	山梨県	土石流
地震海嘯正説録	157	東南湖村、潰家11軒	山梨県	6+
地震海嘯正説録	157	高田村、皆潰、堤潰崩	山梨県	7
地震海嘯正説録	157	高部村、堤潰崩、潰家あり	山梨県	6-
地震海嘯正説録	157	浅利村、堤潰崩、潰家あり	山梨県	6-
書付留	77	大井川地震のため人馬超え無し	大井川	—
書付留	77	大井川増水二尺	大井川	津波
書付留	77	岩淵、人家残らず潰、往還石垣、石橋残らず潰	富士川岩淵	7
書付留	77	富士川渡船流失。商船で代行	富士川渡船場	津波？河川増水？
書付留	77	久能山まれなる大地震、御山所々破損。石柵11ヶ所計32.5間崩。石灯籠残らず潰、宮宝蔵などゆるむ。護摩堂、厩、禰宜番所、坊中八ヶ院残らず潰	静岡市久能山	6-
書付留	80	沼津、二の丸住居悉く潰。本丸三丸構向、侍屋敷、長屋向、領分在町潰家破損所夥しい	沼津	6+
書付留	80	気賀、高潮入り田畑2800石潮下になる。10日になっても引かず	浜名湖	津波
書付留	81	気賀関所、東西門揺り下げ、傾く。番所傾き大破、足軽番所、遠見番所、地震割傾。所所石垣崩れ	気賀	6-
安政年表	82	下田地震強 火災有り	下田	5-
安政年表	82	下田津波にて市中68町流失、死85、	下田	津波
御城書	83	掛川、居城所所破損、家中町郷共悉大破、6000両拝借	掛川	6-
御城書	84	駿河小島、陣屋向、家中町郷共破損、1000両拝借	駿河小島	6-

文献名	頁	地点名、事項	現代地名	震度 現象
御城書	84	沼津、二之丸、居住向、城内外家中町郷共悉破損、3000両拝借	沼津	6-
御城書	86	浜松、城内櫓、多門、住居向所破損、石垣崩所あり。3000両拝借	浜松	5-
御城書	86	遠州横須賀、2000両拝借	大須賀町	5+
御城書	87	駿河田中、城内多門、住居悉く大破石垣崩所もあり	藤枝市	5+
大屋祐義日記	88	掛川、天守櫓城内外潰屋破損数多。	掛川城	6-
大屋祐義日記	88	掛川城下、町残らず潰。出火あり。	掛川城下	7
大屋祐義日記	88	駿河田中、城内住居向、囲い塀など破損、家中屋敷、城下、村村潰家数多。死人もあり	駿河田中	6+
大屋祐義日記	88	沼津、二の丸住居悉く潰。本丸三の構、侍屋敷、長屋向、領分在町とも潰家夥、場外足軽屋敷出火、程なく鎮火	沼津	6+
大屋祐義日記	88	久能山御住所、坊中八ヶ院残らず潰。	久能山坊中	7
大屋祐義日記	89	久能山、御宮、宝塔、榊原越中守預かりの一之御門無事	久能山	
大屋祐義日記	89	遠州横須賀、本丸三の丸構向破損、侍屋敷長屋向領分町在とも潰家破損所夥し。出火有り。	遠州横須賀	6+
大屋祐義日記	89	下田、柿崎村、人家多分流失。玉泉寺のみ残る	下田柿崎	津波
大屋祐義日記	90	今切関所、西番所皆潰、勝手向半壊、御門柱抜けだし傾く、両袖塀倒れる、船頭会所余程傾く。	今切関所	6+
大屋祐義日記	90	今切関所、津波御門内まで汐打ち込む	今切関所	津波
安田賤勝筆記	103	駿府新町一丁目、梅屋町、左右の家ススキの風になびくがごとし。諸人道路に倒れ。梅屋町の四つ角の北西の角の家南北のひさし地面に落ち、東南の角の家崩る音たとえる者なし。	駿府梅屋町	6+
安田賤勝筆記	104	新町一丁目亀屋惣吉宅過半倒れかかる。	駿府新町一丁目	6+
安田賤勝筆記	104	駿府江川町砂張屋より出火。新かい町、上中下伝馬町、鑄物師町、院内町、上下横田町、残らず焼失。わずかに東の棒鼻南側15軒北側16軒のこる。東西17,8町、南北1町余家数100軒余焼失。		火災
安田賤勝筆記	106	駿府城付近、呉服町より御堀端お城の石垣四方とも50間、100間ずつ崩れ落ちて残るところはわずかなり。大樹の松榎根こそぎ倒れる。	駿府城	6+
安田賤勝筆記	106	駿府城前道路、各御門の屋根は崩れ、大手へ山をなす。このあたりの路は五、六寸宛さけて青泥を吹き出す。	駿府城	6+
安田賤勝筆記	106	駿府城下。町並みは五軒目、七軒目には五軒、十軒あるいは二十軒全潰になる者有り。		6+
安田賤勝筆記	107	江尻、一軒も残らず焼失	江尻宿	火災
安田賤勝筆記	107	江尻巴橋落、通行できず	江尻	6+
安田賤勝筆記	107	駿府浅間宮付近、そのあたりの人家、悉く潰	浅間宮門前	7
安田賤勝筆記	107	駿府浅間宮、本社神楽殿絵馬堂、矢大臣門石鳥居無事。石灯籠皆みじんになる	駿府浅間宮	4
安田賤勝筆記	107	駿府浅間宮参道石灯籠皆微塵になる	駿府浅間宮参道	6-
安田賤勝筆記	107	駿府宮崎町より魚町。家倒れあい路ふさがれ、屋根づたいに通行す。	駿府宮崎町、魚町	7
安田賤勝筆記	107	安倍川、六日、水かさ増す。河原は五尺ばかりずつ地割れ幾筋も裂け、小石崩れ込む。三尺ばかり低くなる。	安倍川	6+
安田賤勝筆記	107	安倍川より駿府への街道松並木。七、八寸より一尺地裂け、深さ三、四尺。	安倍川・駿府間東海道	6+
安田賤勝筆記	107	駿府伝馬町即死五十六人。	駿府伝馬町	7

文献名	頁	地点名、事項	現代地名	震度現象
安田賤勝筆記	107	駿府清水尻、同心長島氏手習い師匠、稽古所自宅潰、門弟30人余即死。	駿府清水尻	6+
安田賤勝筆記	107	宝泰寺門前、少し残る家も有れど、悉く倒れ。	宝泰寺門前	7
安田賤勝筆記	112	駿府・江尻間、村々三分過ぎも潰		6-
安田賤勝筆記	112	横須賀さしたること無し	横砂	5-
安田賤勝筆記	112	興津、宿泊差し支え無し。さしたること無し。清見寺前無事	興津	5-
安田賤勝筆記	112	興津宿東はずれ、多分潰家有り	興津東口付近	6-
安田賤勝筆記	112	さった峠無事	薩垂峠	4
安田賤勝筆記	112	倉沢無難	倉沢	4
安田賤勝筆記	112	由比宿さしたること無し	由比	5-
安田賤勝筆記	112	由比宿東のはずれは倒家多し	由比東はずれ	6-
安田賤勝筆記	112	蒲原宿、問屋場より南1丁半焼失。その南北は悉く潰	蒲原	7
安田賤勝筆記	112	富士見茶屋、地五、六寸裂ける	富士見茶屋	6-
安田賤勝筆記	112	中の郷六尺余も地裂け低くなる	中の郷	6+
安田賤勝筆記	113	岩淵、立場悉く潰	富士川町岩淵	7
安田賤勝筆記	113	岩淵身延追分、三丈余の石積み残らず崩壊。家も下へこけ落ち	富士川町身延追分	6+
安田賤勝筆記	113	富士川は地震直後に上流で見ずがせき止められ、二三日は歩行で対岸にわたれた。17日は元に復したが河幅は広くなった。	富士川	
安田賤勝筆記	113	元市場将棋倒しのごとくなりたり。	富士市元市場	7
安田賤勝筆記	113	吉原宿、悉く潰	吉原宿	7
安田賤勝筆記	113	吉原宿の東、新橋、川合橋とも落橋	吉原宿東	6-
安田賤勝筆記	113	柏原立場普段と変わりなし	柏原	4
安田賤勝筆記	113	原宿、潰れ家は四、五軒のみ。石の鳥居、石灯籠は悉く倒。	原	5+
安田賤勝筆記	113	沼津宿。多分潰。旅籠屋まれに建っている家はあるが二三尺宛も傾き、泊まれる家は一軒も無し。旅館虎屋は表の方潰。座敷残るも障子弓なりになる。沼津宿は13日に火災出来。	沼津宿	6+
安田賤勝筆記	113	沼津城、悉く崩れ、北端の隅の櫓のみ残る。	沼津城	7
安田賤勝筆記	114	沼津千本松原、元の松原は三丈余掘れて波打ち際となる。	沼津松原	津波
安田賤勝筆記	114	沼津小林村、家10軒揺り込み、家の屋根少し見える。	沼津小林村	6+
安田賤勝筆記	114	沼津・黄瀬川間、往還縦に七八寸裂け。幾筋もあり。	沼津・黄瀬川間	6-
安田賤勝筆記	114	黄瀬川、家悉く潰、黄瀬川橋のみ無難。往還地横に裂。	黄瀬川	7
安田賤勝筆記	114	千貫通少し破損。人家はみな潰。	三島千貫通	7
安田賤勝筆記	114	三島入り口火除堤中程三尺余堤ごと地裂け、清水湧出、川になる	三島宿西端	6+
安田賤勝筆記	114	三島宿大和屋、座敷のみ残る	三島宿	
安田賤勝筆記	114	修善寺山崩れ、温泉口をせき止める。住民山住まい。	修善寺	6+
安田賤勝筆記	114	三島問屋場近辺被害烈し。三島明神本社、絵馬堂、拜殿悉く潰。山門傾き五重塔のみ無事。石垣、鳥居など微塵になる。	三島明神	7
安田賤勝筆記	114	三島明神前から東側一町余火災焼失	三島明神前より東側街路	火災
安田賤勝筆記	114	三島新町橋少し落。	三島新町橋	
安田賤勝筆記	114	三島新町橋向かいはさしたることなし。	三島新町橋向かい	5-
安田賤勝筆記	114	三島宿東箱根山登り口、山崩れ、松の木倒れ、街道は馬荷物ようやく通れるくらい	三島宿から老化移動箱根登り口	6+

文献名	頁	地点名、事項	現代地名	震度現象
安田賤勝筆記	115	塚原村一の山、無難	三島市塚原一の山	4
安田賤勝筆記	115	三谷無難	三島市三谷	4
安田賤勝筆記	115	篠原無難	三島市篠原	4
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	山中村、潰家はなし。家損多く土地所所裂け、並木は一本のみ倒れた。	三島市山中	5-
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	三島宿は一軒残らず潰。町内一町余焼失。又1町水を押上げ候所もあり。前後の破し損じ。三島大社は鳥居倒れたが本殿塔などはそのままのこり。	三島宿	7
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	三島新宿、存外無事、家損は稀にあり。	三島新宿	5+
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	沼津潰家数多。残りの家も大破損。前後の村も同様潰家多し。御城内大破損。	沼津	6+
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	原宿、殊の外無事。潰家も至ってこれ無し。宿泊可能。	原	4
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	吉原宿、沼津同様。中程少々焼失。	吉原	6+
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	蒲原、三島同様。大方焼失。	蒲原	7
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	蒲原、三島同様。大方焼失。	蒲原	7
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	岩淵、三島同様。	岩淵	7
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	興津宿は沼津同様。出火無し。	興津	6+
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	清見寺別状無し。	清見寺	5-
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	興津宿、下へ入り口縄手の間に津波打ち上げのところ五、六間あり。	興津下	津波
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	江尻宿。三島宿同様。焼失も多分にあり。	江尻	7
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	府中、沼津宿同様よりは地震弱し。下の入り口より19町焼失。残りの建物は破損。御城内も殊の外大破損。	駿府	6-
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	安倍川潰れ家別して少なく候共建て屋破損相応にあり。	安倍川宿	5+
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	丸子宿、潰れ家別して少なく候共建て屋破損相応にあり。	丸子	5+
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	岡部宿、潰れ家別して少なく候共建て屋破損相応にあり。	岡部	5+
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	藤枝宿入り口30軒ばかり焼失。残り建て屋も多分破損。	藤枝	5+
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	田中御城大破損の由	田中城	5+
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	三軒家は建物損じ候ばかり	三軒家	5+
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	島田宿、少々潰家もあり候得とも多分破損ばかり	島田宿	5+
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	大井川渡り茶屋破損	大井川渡茶屋	5+
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	金谷宿、下の入り口潰家これ有り	金谷宿東方入り口	6-

文献名	頁	地点名、事項	現代地名	震度現象
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	金谷宿、下の入り口潰家これ有り	金谷宿東方入り口	6-
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	金谷宿、その余は損じばかり。無事の家もあり。	金谷宿	5-
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	小夜中山、茶屋残らず潰れ。寺は大門、本堂潰。庫裏は残る。	小夜中山	6-
続地震雑纂・東海道大地震実記	129	日坂宿、殊の外無難。潰家はことに稀。宿泊可能。	日坂	5-
続地震雑纂・東海道大地震実記	130	掛川宿。三島同様。宿内残らず焼失。前後の村も一軒も残らず潰。御城大破損。	掛川	7
続地震雑纂・東海道大地震実記	130	袋井宿、掛川同様焼失。前後の村々も同断の潰。	袋井宿	7
続地震雑纂・東海道大地震実記	130	見附宿、建て屋損じばかり。	見附宿	5+
続地震雑纂・東海道大地震実記	130	中泉代官所残らず潰。	中泉	6+
続地震雑纂・東海道大地震実記	130	浜松、見附よりさらに無難。ただし、寺17カ所残らず潰れ申す由。御城は塀など少々損じばかり。	浜松宿	5-
続地震雑纂・東海道大地震実記	130	舞阪損じ	舞阪	5+
続地震雑纂・東海道大地震実記	130	新居関所潰。通行止めとなる。	新居	6-
続地震雑纂・東海道大地震実記	130	三ヶ日宿、存外無難。止宿可能。	三ヶ日	5-
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	山中、歯抜けのごとく倒れ	三島市山中	6-
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	篠原、歯抜けのごとく倒れ	三島市篠原	6-
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	三島、山際より三丁半壊。それより上の方残らず潰。焼失。三島明神三本社と三重の塔のみにあいなり。死人四、五人ばかり	三島	6+
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	沼津、御城内残らず焼け。櫓崩れ焼失。一つ残る。宿より下半分通り焼け。問屋より西側皆潰。向こう側杖突残り。	沼津	7
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	小林村21軒めり込む。屋根ばかり見ゆ。	小林	6+
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	原、一分通り潰。毘沙門無難。	原	5-
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	吉原宿、東の方2町ばかりの所七分通り潰。焼け残る。西の方残らず焼失。死人5,6人	吉原	6+
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	富士川まで残らず潰	吉原・富士川間	7
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	岩淵残らず潰。死人27,8人	岩淵	7
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	蒲原宿、問屋場微塵となる。同所より東の方九歩通り潰。西の方残らず焼失	蒲原	7
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	由比宿。格別のこと無し。	由比	4
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	倉沢無難	倉沢	4
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	興津、70軒、残り杖突残る。	興津	6+

文献名	頁	地点名、事項	現代地名	震度現象
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	ほら村半壊	洞村	5+
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	江尻宿、東の方二町残る。後残らず焼失	江尻東方	5+
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	江尻宿東の方二町残る。後残らず焼失	江尻宿	6+
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	府中宿、御城内大破、石垣堀へ崩れ落ちる。宿は七分通り潰。東の方三分の一焼失	府中	6+
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	丸子宿、二歩通り潰。	鞠子	5+
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	宇津ノ谷、(丸子) 同様	宇津ノ谷	5+
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	岡部宿、東の方中程まで半壊、上の方残らず焼失	岡部	6-
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	藤枝まで九歩潰。同宿東の方十丁ばかり焼失	藤枝	7
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	田中御城内大破、上の方半壊	田中	6-
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	島田宿、三分潰、大井川別状無し	島田宿	6-
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	金谷宿、瓦町より仲町まで焼失。上の方四、五軒潰。鮎の餅皆潰	金谷宿	6-
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	日坂宿、格別のこと無し。歯抜け潰。山の鼻の立場まで所所潰家あり。	日坂	5+
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	130	掛川、宿内残らず焼失。宿内何一つ残らず。死人150人ばかり。御城内大破。御城は堀所崩れ。	掛川	7
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	原川、残らず潰	原川	7
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	袋井、残らず焼失、二百人ばかり死。この宿も原のごとく見ゆ。小屋一つなし。九分通り余潰	袋井	7
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	見附、三分通り潰。	見附	6-
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	横須賀皆潰	横須賀	7
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	久能山崩れ、御宮別状無し。	久能山	6+
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	中泉陣屋潰	中泉	6+
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	天竜川から浜松まで三分潰	天竜川・浜松間	6-
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	浜松三分通り潰	浜松	6-
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	舞阪宿、津波は来たがたいしたことなし。杖つき家有り。潰家1軒。	舞阪	5+
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	新居宿。御関所潰。近辺の町屋格別の義なし。津波で死んだ人18人ばかり。	新居	5-
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	白須賀宿、三歩潰	白須賀	6-
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	二川宿、三歩潰	二川	6-
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	伊豆下田千軒のところ37軒も残り。	下田	津波



文献名	頁	地点名、事項	現代地名	震度現象
続地震雑纂・東海道之次第開書之実説	131	由比、興津から逆波東方に横幅凡そ100間ばかり	由比興津	津波
続地震雑纂・柏田直次郎由比宿より自宅宛書状	131	由比の西入口の河原三日野宿、その後定宿に移動	由比西口河原	5+
続地震雑纂・神津重郎右衛門遠州よりの書状	132	舞阪の東の高塚で、地震似合い、藪に逃げ込む。小屋掛け。	高塚	5-
続地震雑纂・神津重郎右衛門遠州よりの書状	132	東坪井に津波達する。	東坪井	津波
続地震雑纂・神津重郎右衛門遠州よりの書状	132	高塚、くず屋少々ねじけ	高塚	5-
続地震雑纂・神津重郎右衛門遠州よりの書状	132	舞阪宿、4、5軒沖に流し出され	舞阪	津波
続地震雑纂・神津重郎右衛門遠州よりの書状	132	浜松御城内隅櫓御長屋などは崩れ、外別条なし。町屋も所所潰のみ。怪我人なし。	浜松城	5+
続地震雑纂・神津重郎右衛門遠州よりの書状	132	天竜川、泥水山方より押し参り、石なども流れ、出水	天竜川	新湖出現決壊
続地震雑纂・神津重郎右衛門遠州よりの書状	132	中泉代官所、御陣屋残らず潰れ	磐田市中泉	6+
続地震雑纂・神津重郎右衛門遠州よりの書状	132	見附宿、二分通り潰。出火あったがすぐ消された。死9人。	見附	6-
続地震雑纂・神津重郎右衛門遠州よりの書状	133	袋井、地震にて余程潰。三カ所から出火、二、三軒残るのみ。死40-50人。	袋井	6+
続地震雑纂・神津重郎右衛門遠州よりの書状	133	掛川、城内より出火、半分焼失。	掛川城	火災
続地震雑纂・神津重郎右衛門遠州よりの書状	133	二川白須賀は少々穏やか。往来松原所所転倒	湖西市二川	5-
続地震雑纂・神津重郎右衛門遠州よりの書状	133	二川白須賀は少々穏やか。往来松原所所転倒	湖西市白須賀	5-
続地震雑纂・神津重郎右衛門遠州よりの書状	133	新居宿。潰家有り、御関所御番所も崩。	新居	6-
続地震雑纂・神津重郎右衛門遠州よりの書状	133	新居渡船。二三艘行方不明。薩摩藩主の荷物山崎村に流れよる。沖係大船も破船。死者もある由。	新居渡船	津波
続地震雑纂・神津重郎右衛門遠州よりの書状	133	津波で4,5軒流失したが、板屋根のためか潰家はなし。	舞坂	5+
続地震雑纂・神津重郎右衛門遠州よりの書状	133	遠州横須賀、城下焼失	大須賀町	火災
続地震雑纂・神津重郎右衛門遠州よりの書状	133	佐柄（相良）、田沼様陣屋潰	相良	6
続地震雑纂・神津重郎右衛門遠州川崎より12月16日書状	133	今切れ渡船は十一月20日ころから再開	今切	回復
続地震雑纂・神津重郎右衛門遠州川崎より12月16日書状	133	江戸、まず穏やか。潰家なし。場所により高塀崩れ。屋根瓦落ち。	江戸	5-
続地震雑纂・神津重郎右衛門遠州川崎より12月16日書状	133	相良、川崎、一丈七、八尺の津波来た。家数も少々流れ。	相良	津波
続地震雑纂・神津重郎右衛門遠州川崎より12月16日書状	133	相良、川崎、一丈七、八尺の津波来た。家数も少々流れ。	川崎	津波
続地震雑纂・神津重郎右衛門遠州川崎より12月16日書状	133	当所（遠州川崎）も皆潰に御座候共、筆者の宿泊した伊勢屋旅宿は不思議と助かり、少々破損に留まる	川崎	6+
続地震雑纂・神津重郎右衛門遠州川崎より12月16日書状	133	（遠州川崎にて）12月5日28時地震余程強く、潰かかりの家はこの地震で潰。	川崎	12月6日4時余震、5+
続地震雑纂・憂北生伊豆下田よりの書状	134	朝五つ二分五厘のころ、下田大地震。土蔵など壁落。土地少々割れ、泥少々出。市中大騒動	下田	5+

文献名	頁	地点名、事項	現代地名	震度現象
続地震雑纂・憂北生伊豆下田よりの書状	134	下田津波一番潮で市中一面津波。筆者本覚寺へいけず。了仙寺へ行ったところ一番潮引き始める。たばこ2服ほどの間に大工町より出火。二の波来て、これによって九百軒の人家一気に将棋倒しとなる。潮は岡方、本郷の畑中まで来た。	下田	津波、火災
続地震雑纂・憂北生伊豆下田よりの書状	134	下田で残ったのは、坂下町に18軒。稲田寺半流、床の上泥つく。古賀様旅宿残らず流れ。都筑様旅宿寺皆流れ。長楽寺無難、少々の痛み。福泉寺流れ、海禅寺皆流れ、泰平寺皆流、本覚寺皆流、ロシア人休息所皆流。小普請所半流。黒川様新宅御役所皆流、同心屋敷新宅11軒皆流、了仙寺半流。	下田	津波
続地震雑纂・憂北生伊豆下田よりの書状	136	下田潰流816軒、半潰25軒、水かぶり18軒、岡方村112軒、柿崎村111軒、本郷村67軒、中村12軒、死凡50-60人。大船35-36艘。	下田	津波
続地震雑纂・憂北生伊豆下田よりの書状	137	下田本郷村売布神社に津波入らず。それより10町上の1200石船打ち上がる。	下田本郷	津波
続地震雑纂・幸福氏家来甲府伊勢舎より書状、11月10日出	143	(興津から甲州へ向かう街道、八日市場、切石宿へ半里、山路河原にて)地震にてなかなか立っておられぬほどとなる。山路よりは木石崩れ落ち。	山路河原	5+
地震海嘯正説録	155	三島宿大半潰れ、それより出火にあいなり、明神より西は5-6軒、東は三町焼失。	三島	火災
地震海嘯正説録	155	島田宿、即死人四人ほど。潰家4軒	島田	6-
地震海嘯正説録	155	藤枝宿、宿内残らず破損	藤枝	5+
地震海嘯正説録	155	岡部、宿内残らず半損	岡部	5-
地震海嘯正説録	155	丸子、少々潰家これ有り	鞠子	5+
地震海嘯正説録	155	府中、宿内呉服町より出火、下横田まで焼失	静岡	火災
地震海嘯正説録	155	沼津宿御城内出火、宿中大半潰。	沼津	6+
地震海嘯正説録	155	江尻、宿内橋向より出火、東の方へ焼失	江尻	火災
地震海嘯正説録	155	興津宿、由比宿、宿内すこしずつ破損これ有り	興津	5-
地震海嘯正説録	155	興津宿、由比宿、宿内すこしずつ破損これ有り	由比	5-
地震海嘯正説録	155	蒲原宿、宿内残らず潰家にあいなり。問屋場より西の方は、一町焼失	蒲原	7
地震海嘯正説録	155	岩淵家数30軒焼失。	富士川町岩淵町	火災
地震海嘯正説録	155	吉原町、宿内残らず潰家に成り	吉原	7
地震海嘯正説録	155	原潰家少々これ有り	原	5+
地震海嘯正説録	155	下田、辰の中刻、大地震、二度目の揺り返し甚だしく、旅宿縁側窓鴨居はずれ、石垣など崩れるほど。浜手よし火起こり。	下田	5+
地震海嘯正説録・杉四郎手記	155	下田稲田寺か？(杉四郎宿泊寺)、書院台所床より二寸どろ押し込み、本堂は無事	下田	津波
地震海嘯正説録・中泉代官林伊太郎報告	156	中泉陣屋皆潰にあいなり。陣屋元近村同様の趣	磐田市中泉	6+
地震海嘯正説録・大地震の義につき届書	156	袋井宿、皆潰の上出火、一宿残らず焼失	袋井	7
地震海嘯正説録	156	舞坂宿、並びに浜手の村々、津波にて過半内潰れ	舞坂	津波
地震海嘯正説録・大地震の義につき届書	156	袋井宿、皆潰の上出火、一宿残らず焼失	袋井	7
地震海嘯正説録・大地震の義につき届書	156	日坂宿、見附宿、潰家あれども往来継ぎ立ては差し支えなし。	日坂	5+
地震海嘯正説録・大地震の義につき届書	156	日坂宿、見附宿、潰家あれども往来継ぎ立ては差し支えなし。	磐田市見付	5+

文献名	頁	地点名、事項	現代地名	震度現象
地震海嘯正説録・大地震の義につき届書	156	掛塚村、村内過半潰、津波にて直大破に及ぶ	竜洋町掛塚	6+
地震海嘯正説録	157	駿府城、所所破損、御多門皆潰、同所詰め砦堀へ打ち落とす。	駿府城	6-
地震海嘯正説録	158	駿府、紺屋町本陣、長屋向半潰。御用達場皆潰。駿府御蔵半潰、お米無難。	駿府紺屋町	6-
地震海嘯正説録	158	島田宿、陣屋半潰。		5+
地震海嘯正説録	158	金谷河原町半潰、即死人14-15人ほど	金谷	6-
地震海嘯正説録	158	蒲原宿、皆潰のうえ一丁ほど焼失	蒲原	7
地震海嘯正説録	158	江尻宿、皆焼失	江尻	火災
地震海嘯正説録	158	岩淵宿、半潰、30軒ほど焼失、怪我人数多。往来のもの軒下、または屋根上を通行。	岩淵	6-
地震海嘯正説録	158	由比、興津、潰家2、3軒ずつ	由比	5+
地震海嘯正説録	158	由比、興津、潰家2、3軒ずつ	興津	5+
地震海嘯正説録	158	箱根宿、無難、本陣皆潰	箱根	6-
地震海嘯正説録・駿府其他大地震之趣、先御届書	158	駿府紺屋町陣屋、半刻ほどの間大地震。紺屋町陣屋所所大損。御用達場は皆潰。手代居小屋半潰、または所所破損多。紺屋町勘定場、御内蔵、御多門は潰同様。	静岡市	6-
地震海嘯正説録	158	駿府江川町より出火。西風激しく、紺屋町、新谷町、院内町、横田町、悉く焼失。	静岡市	火災
地震海嘯正説録・大草太郎左衛門報告	158	金谷宿本町より河原町へ掛家並み皆潰	金谷	6+
地震海嘯正説録	159	下田、9回波が来た。第2波最大で町過半流失。第3波で残りすべて。山際の七八ヶ寺は浸水に留まる。六百石積の船海岸から15町ほどの本郷の田に漂着。下田856軒、内25半潰、18無事、816軒流失。人工3,907人のうち85人死。役人6人死	下田	津波
地震海嘯正説録	160	下田の柿崎、21軒潰	下田柿崎	津波
賀茂郡下田町震災および海嘯ノ状況聞取書	227	家屋転倒するものなく、わずかに庇および荒壁などの墜落、石垣の破損のみなり。	下田	5-
賀茂郡下田町震災および海嘯ノ状況聞取書	227	下田被害：流失皆潰841、半潰水入り30、無事は七軒町に4軒。住民人口3851人、住民死99人、人別外（一時的滞在者）死23、合計死122人。	下田	津波
賀茂郡下田町震災および海嘯ノ状況聞取書	227	下田岡方村、流失皆潰96、半潰浸水13、柿崎村は流失皆潰半潰75。	下田岡方、柿崎	津波
伊豆半島地震史料	230	宇久須、四日の大地震前々より日に何回となく小地震あり。	中伊豆町宇久須	前震
伊豆半島地震史料	230	宇久須、神田（じん）の当多沢付近に亀裂を生じ、神田青年館裏の大岩落下。	中伊豆町宇久須	5-
伊豆半島地震史料	230	田子屋五つ半時地震	中伊豆町田子	4
伊豆半島地震史料	230	妻良、地震は強震にて家の瓦は落ち、一軒ぐらいの高さの生け垣の突端は地に府連ばかりに両側に動揺した。	南伊豆町妻良	5-
伊豆半島地震史料	230	下流。老婆は山で仕事をしていたが、この異変に氣遣って寺子屋の子供を氣遣って山を下りたところ津波被害に気がついた。	南伊豆町下流	5-
土屋荘平所蔵記録	232	沼津市内浦重須、鈴木顕蔵宅中および別荘破損少なからず。	沼津市内浦重須	5+
土屋荘平所蔵記録	232	三津坂岩石崩落して道をふさぐ	沼津市三津	5+
網代村誌	233	屋根瓦落ちること夥しく・・・人畜の死傷はなし。	網代	5-
虫倉後記	290	田中城、城内住居向並びに囲い堀破損。	藤枝市田中城	5-
虫倉後記	290	鬼島村八幡橋震落。	藤枝市鬼島	5+

文献名	頁	地点名、事項	現代地名	震度 現象
虫倉後記	290	駿府在細川村あらまし潰	細川村	6+
虫倉後記	290	清水湊は残らず潰之上出火	清水湊	7
虫倉後記	291	江尻・興津間松原の並木道中一尺ほど割れ通り	江尻・興津間	6-
虫倉後記	291	興津宿あらまし潰	興津	6+
虫倉後記	291	薩埵峠長4-5尺、深さ4尺ほどに割れ	薩埵峠	6-
虫倉後記	291	倉沢から由比大いに軽し	倉沢	4
虫倉後記	291	倉沢から由比大いに軽し	由比	4
虫倉後記	292	岩淵残らず潰	富士川町岩淵	7
虫倉後記	292	五貫島村皆潰	富士市五貫島	7
虫倉後記	292	元市場村皆潰	富士市元市場	7
虫倉後記	292	吉原宿上手2-3町のこる。石橋より江戸方残らず焼失	富士市吉原	火災
虫倉後記	292	三島宿千貫樋より明神前まで残らず潰	三島	7
虫倉後記	292	明神前より江戸の方残らず焼失	三島	火災
虫倉後記	292	市が原村二丁ほど焼失	三島市	火災
虫倉後記	292	三島大社は五重塔ばかり残り、其の外社中残らず潰	三島大社	6+
御城書	83	尾州表所所破損	名古屋	5-
御城書	84	名古屋城、櫓多門屋根胴壁数カ所破損、三之丸高塀長さ63間破損、三之丸胴壁数カ所破損	名古屋城	5-
御城書	84	熱田東西浜屋形内、8棟倒、19棟破損、高塀長60軒倒、395軒破損	熱田	6-
御城書	84	名古屋城下、武家屋敷、玄関、座敷、長屋、門、147カ所倒、家4081軒流失、倒、男女圧死4	名古屋城下	6-
御城書	84	尾州領分、田畑6940石損亡、堤猿尾井桁2,239間損失、同破損103,937間、往還破損36,068間、石籠8,436間、材木流失426本、山崩31,196坪	尾州領分(尾張三河美濃にまたがる)	
御城書	84	尾州領分、武家屋敷倒147カ所、家倒4,081、土蔵倒253、高塀倒829間、寺堂倒14、寺庫裏等倒69、寺門倒41、社倒4、鐘楼堂倒13、拝殿倒5	尾州領分(尾張三河美濃にまたがる)	
御城書	85	尾州領分船流失4、船破損134、死4	尾州領分(尾張三河美濃にまたがる)	
御城書	86	三河拳母、城内住居向大破、櫓多門破損1000両拝借	三河拳母	5+
御城書	86	三河田原、城内櫓、多門住居向、大破1000両拝借	田原	5+
御城書	86	三河吉田、居城本丸、櫓多門、その他大破、石垣崩所あり。3000両拝借	吉田	5+
御城書	87	三河刈谷、居城住居向、多門大破、石垣崩所も有り	刈谷	5+
大屋祐義日記	89	三河吉田、二の丸住居残らず。櫓大破、家中屋敷在町とも潰家損所有り	三河吉田	6+
大屋祐義日記	89	三河吉田大橋、破損すれども往還支障なし	三河吉田	5+
安田賤勝筆記	110	三河豊川、家の潰はなし。	豊川	5-
続地震雑纂・井上伝太夫・宮渡船中に書いた書状	128	三河田内宿、余程揺り強く、皆々裏口へ小屋を造り住む。	三河田内	5-
続地震雑纂・東海道大地震実記	130	御油、無難	御油	5-
続地震雑纂・東海道大地震実記	130	赤坂、無難	赤坂	5-
続地震雑纂・東海道大地震実記	130	藤川、無難	藤川	5-
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	吉田宿。上下総門前後一步余の潰。	豊橋	5+
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	御油宿無事	御油	4

文献名	頁	地点名、事項	現代地名	震度現象
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	赤坂宿無難	赤坂	4
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	藤川宿無難	藤川	4
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	岡崎宿	岡崎	4
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	矢作橋・岡崎宿間無事		4
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	矢作橋、中程より上の方三、四カ所大めりこみ	矢作橋	6-
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	池鯉鮒宿、一步潰	知立	5+
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	鳴海宿、一步潰	鳴海	5+
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	宮宿、二歩潰、本陣潰	宮	6-
続地震雑纂・神津重郎右衛門遠州よりの書状	133	余程の荒れ、城少々損じ	豊橋	5+
続地震雑纂・安濃津某氏より林氏へ送る書状	138	常滑は半潰。津波あり。	常滑	5+
続地震雑纂・東海道飛脚の噂	140	宮、鳴海、池鯉鮒少々の損家	名古屋・宮	5-
続地震雑纂・東海道飛脚の噂	140	宮、鳴海、池鯉鮒少々の損家	名古屋・鳴海	5-
続地震雑纂・東海道飛脚の噂	140	宮、鳴海、池鯉鮒少々の損家	知立	5-
続地震雑纂・名古屋より帰宅の今井田氏の話	141	裏町は倒家もあり。表町はさしたること無し。	名古屋	5-
続地震雑纂・名古屋より帰宅の今井田氏の話	141	御家中向き、余程大破。潰家もこれある由。	名古屋	5+
続地震雑纂・名古屋より帰宅の今井田氏の話	141	宮。表町子細無し。裏町などは余程損じ。	名古屋	5+
続地震雑纂・名古屋より帰宅の今井田氏の話	141	名古屋は堀川筋など小舟大分損じ	名古屋	津波
続地震雑纂・名古屋より帰宅の今井田氏の話	141	宮、津波は伝馬町まで参り候由。	名古屋市熱田	津波
続地震雑纂・名古屋より帰宅の今井田氏の話	141	笠寺近辺、地震にて余程の潰の由。	笠寺	6-
続地震雑纂・知多郡の人樋口慶輔、志州小浜よりの書状	141	四日市にて停泊中眼前倒家を見た。	四日市	6
続地震雑纂・知多郡の人樋口慶輔、志州小浜よりの書状	141	小生在所は損所一つも無し。	知多郡	4
続地震雑纂・知多郡内海・日比弥兵衛書状12月三日	142	当所津波四、五尺高まったのみ	愛知県知多郡内海	津波
続地震雑纂・知多郡内海・日比弥兵衛書状12月三日	142	当所潰家棟数20軒ばかり。半潰40軒ばかり。後は少しづつ痛み。私居宅は少々ゆがみ。	愛知県知多郡内海	6-
続地震雑纂・参州永良諏訪若狭守殿陣屋役人朝岡司馬より千賀氏へ来書端書	142	当陣屋辺はさしたる儀もこれ無し。	愛知県西尾市永良	5-
続地震雑纂・参州永良諏訪若狭守殿陣屋役人朝岡司馬より千賀氏へ来書端書	142	吉田村、高島村、大島村、相木島村、殊の外大震、家作、土蔵など夥しく潰の上、高津波打ち上げ、家居潮入にあいなり	吉田	6-
続地震雑纂・参州永良諏訪若狭守殿陣屋役人朝岡司馬より千賀氏へ来書端書	142	吉田村、高島村、大島村、相木島村、殊の外大震、家作、土蔵など夥しく潰の上、高津波打ち上げ、家居潮入にあいなり	大島	6-

文献名	頁	地点名、事項	現代地名	震度現象
続地震雑纂・参州永良諏訪若狭守殿陣屋役人朝岡司馬より千賀氏へ来書端書	142	吉田村、高島村、大島村、相木島村、殊の外大震、家作、土蔵など夥しく潰の上、高津波打ち上げ、家居潮入にあいなり	相木島	6-
続地震雑纂・参州永良諏訪若狭守殿陣屋役人朝岡司馬より千賀氏へ来書端書	142	吉田村、高島村、大島村、相木島村、殊の外大震、家作、土蔵など夥しく潰の上、高津波打ち上げ、家居潮入にあいなり	高島	6-
続地震雑纂・村島競美濃綾野村より書状	142	綾野村は潰れ家8、9軒。(中略)綾野は戸障子はずれ申し候。	綾野村	6-
続地震雑纂・村島競美濃綾野村より書状	142	北方は潰家一軒	北方	5-
続地震雑纂・濃州高須吉田某より広辻氏へ来書	142	弊宅もこの度は殊の外大破に及び。もはや住居難しき様相。土蔵も一つ潰同様にあいなり、その余損傷少なからず。四隣近郷倒れ家多分にあり。	高須	5+
続地震雑纂・濃州高須吉田某より広辻氏へ来書	142	宮宿は50軒余倒れ家これ有り候位のことにて御座候。熱田は御境内の灯籠一つも倒れず。	宮宿	6-
続地震雑纂・濃州高須吉田某より広辻氏へ来書	142	宮宿は50軒余倒れ家これ有り候位のことにて御座候。熱田は御境内の灯籠一つも倒れず。	熱田神宮	4
続地震雑纂・上州山田郡の人参宮之話	146	津島は壊れ家数多これ有り	津島	6-
地震海嘯正説録・大地震の義につき届書	156	赤坂宿、まず無難	赤坂	4
地震海嘯正説録・松平伊豆守様御届書	157	三河吉田、本丸辰巳櫓潰、石垣崩、一カ所、鉄橋半崩、南多門潰、石垣崩、北多門武具方御役所まで潰。川手長屋潰、川手櫓大破、隅櫓大破、入道櫓傾、同櫓下石垣崩、着到櫓壁崩大破、二之丸大書院潰、	三河吉田	5+
安政見聞録	187	熱田駅、家はおしなべて揺り崩しあるいは梁棟に押されて泣き叫ぶ男女	名古屋市熱田	6+
安政見聞録	187	熱田神宮。宮は少しの損じもなし。	熱田神宮	4
大地震大津波	278	岡崎、人家少し損じ、	岡崎	5-
大地震大津波	278	矢作村、人家所損じ、矢作橋のうち6カ所揺り込み	岡崎	5+
書付留	79	美濃高須、辰中刻過より強地震。居所侍屋敷在町破損、潰家有り。川堤所々震裂	岐阜県高須	6-
書付留	79	加納、城本丸二の丸櫓高塀壁落震割。町郷潰家34、半壊30	岐阜市	6-
御城書	86	美濃高須邑、陣屋居住、家中、町郷地震に破損、1000両拝借	美濃高須	5+
御城書	86	大垣、居城住居、櫓多門家中町郷破損、4000両拝借	大垣	5+
御城書	86	犬山城、石垣崩、5000両拝借	犬山城	5+
続地震雑纂・村島競美濃綾野村より書状	142	大垣は大分潰れ家御座候。ねじれ家数多御座候	大垣	6-
続地震雑纂・村島競美濃綾野村より書状	142	文吉は伊目良大桑へ参り候故、格別の義もこれ無し。伊目良北方は戸障子はずれ候ことも無し。	伊目良	4
続地震雑纂・村島競美濃綾野村より書状	142	文吉は伊目良大桑へ参り候故、格別の義もこれ無し	大桑	4
続地震雑纂・村島競美濃綾野村より書状	142	塩田は戸障子はずれ申し候。	塩田	5+
書付留	80	福井、まれなる大地震、破損所	福井	5+
続地震雑纂・越前敦賀吉田宗左衛門書状、11月17日出	144	潰家もあり、即死人も有り。深雪のため破壊も多く、死者2。土蔵壁半ばより下落ち。	敦賀	5-
続地震雑纂・越前敦賀打宅弁次郎原鹿七より書状、12月14日出	144	当地も余程の地震にては候得共、拙宅は格別の破損はなし。当地も潰家少々。怪我人も少々。	敦賀	5-

文献名	頁	地点名、事項	現代地名	震度現象
続地震雑纂・内海友之進越前小浜之話	145	四日、五日の地震は軽く、潰家などは一軒もなし。	小浜	4
続地震雑纂・井坂伝兵衛旅中日記	145	小浜城下に宿泊中地震。早速二階より降り、振動烈しき故、家内皆外へ逃げ出す。家土蔵動くこと波打つごとし。六月の地震より強し。	小浜	4
続地震雑纂・井坂伝兵衛旅中日記	145	若狭三郡の内、遠敷郡、大飯郡は人家は損等はこれ無し。壁など少々破れ目入る程度のこと。	若狭遠敷郡	4
続地震雑纂・井坂伝兵衛旅中日記	145	若狭三郡の内、遠敷郡、大飯郡は人家は損等はこれ無し。壁など少々破れ目入る程度のこと。	若狭大飯郡	4
続地震雑纂・井坂伝兵衛旅中日記	145	若狭三郡の内、三方郡は右二郡よりは振動甚だしく、少々人家破損これ有り	若狭三方郡	5-
書付留	78	伊勢長島城内住居囲い塀破損、櫓潰、侍屋敷、在町潰家破損所有り。領分総堤揺り下げカ所多	伊勢長島	6-
書付留	80	伊勢神戸、城内家中町屋寺院など破損所有り	鈴鹿市	5+
御城書	83	亀山、城内外櫓多門その他家中悉く大破、3000両拝借	亀山	6-
御城書	83	伊勢神戸、城内家中町郷悉く破損。1500両拝借	伊勢神戸	6-
御城書	84	鳥羽、居城破損、領内損所少なからず。2000両拝借	鳥羽	5+
嘉永七年甲寅諸国地震記・大坂屋定次郎書状	100	四日市人家三十軒ばかり潰家となる。	四日市宿	6-
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	桑名宿、無難	桑名	4
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	四日市宿、40軒ばかり潰。あと格別のこと無し。	四日市	6-
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	海上別状無し	海上	4
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	若松、別状無し	若松	4
続地震雑纂・東海道之次第聞書之実説	131	四日市より南よりはさしたることも無し		
続地震雑纂・安濃津某氏より林氏へ送る書状・11月7日	138	地震後潮はいったん引き、四つ半ごろ（13時）大波来て入江町の堀川口上へ水上がり、堀留新地裏まで潮上がり。	津	津波
続地震雑纂・安濃津某氏より林氏へ送る書状	138	筆者、広場へ仮住まい。家中大破、寺院大破、本堂潰はなし。	津、武士居住地、寺院	5+
続地震雑纂・安濃津某氏より林氏へ送る書状	138	岩田立合町、弁財町より藤枝町までに50軒ばかり潰。	津、岩田立合町、弁財町、藤枝町	6-
続地震雑纂・安濃津某氏より林氏へ送る書状	138	橋内は裏町辺に潰家3、4軒	津、橋内裏町	5+
続地震雑纂・安濃津某氏より林氏へ送る書状	138	橋内通り町筋には潰家無し。土蔵、ひさし、高塚大破損。住居余程損じ。	津橋内、通町	5+
続地震雑纂・安濃津某氏より林氏へ送る書状	138	古和浦300余軒津波に流失8軒のこる。	南島町古和浦	津波
続地震雑纂・安濃津某氏より林氏へ送る書状・11月14日	138	津では御家中、寺院に被害が多く町方は格別のこともなし。50-60軒潰家出来。郷方は潰家110、半潰490、怪我人はなし。	津	6-
続地震雑纂・安濃津某氏より林氏へ送る書状・11月14日	138	津、津波に流された船、岩田橋へ打ち付け人船損じ。死4、郷方男4、女1怪我。	津	津波
続地震雑纂・安濃津某氏より林氏へ送る書状・11月14日	139	贅崎土手辺二三尺高低出来、一尺ばかり口割れ。	津、贅崎土手	6-
続地震雑纂・射和竹川氏より広田氏へ来簡	139	津は潰50、半潰115、大破損傾22、破損傾284、潰土蔵12、半潰土蔵32、大破土蔵192、半潰潰堂6寺、大破損庫裏27、流死2、潮入家13	津	6-

文献名	頁	地点名、事項	現代地名	震度現象
続地震雑纂・射和竹川氏より 広田氏へ来簡	139	津の近郷郷方は潰107、半潰492、傷5。	津近郷	6-
続地震雑纂・安濃津某氏書 状・12月10日	139	町方寺院 潰堂2、半潰2、大破7、潰書院8、半潰大 破書院12、潰門5、半潰玄閣小屋井戸屋形66、大破小 屋庇廊下156、潰高塀雪隠54、	津	5+
続地震雑纂・安濃津某氏書 状・12月10日	139	町方 潮入家13、流死1	津	津波
続地震雑纂・安濃津某氏書 状・12月10日	139	郷中、183.45町歩潮入、泥噴き出し、山崩れ、塩浜7町 歩砂入り。堤切481間。堤欠19,752間。	津郷中	6-
続地震雑纂・安濃津某氏書 状・12月10日	139	津郷中潰家107、半潰492、潰書院5、潰土蔵49、半潰 土蔵244、潰小屋124、半潰小屋126、半潰堂4、潰小堂 2、半潰庫裏1、潰社6、半潰社4、潰門9、半潰門3、 潰高塀44、傾家260、潮入家43、橋落25、傷5	津郷中	6-
続地震雑纂・久居在柴山藤右 衛門書状・11月17日	139	久居は少々の損	久居	5-
続地震雑纂・久居在柴山藤右 衛門書状・11月17日	140	津岩田橋辺茶屋3、4軒潰、川岸にて死4、5人	津・岩田橋	津波
続地震雑纂・久居在柴山藤右 衛門書状・11月17日	140	久居も家中向き大破。	久居	5+
続地震雑纂・伊賀某氏より来 書・11月14日	140	当郷は六月よりやや軽く、家族別条なし	伊賀（上野）	5-
続地震雑纂・神戸・磯部宇右 衛門書状・11月8日	140	当地は前後に比較すればやや穏やか	鈴鹿市神戸	5-
続地震雑纂・神戸・磯部宇右 衛門書状・11月8日	140	四日市は潰家40-50軒。怪我人なしと伝聞。	四日市	6-
続地震雑纂・神戸・磯部宇右 衛門書状・11月8日	140	桑名辺大いに緩く	桑名	5-
続地震雑纂・四日市森本一兵 衛書状・11月11日	140	四日市、六月中より度々の地震故、皆家緩み候得ば、 存外倒れ家もこれ有り。新たに建てた家は損じなく無 事。森本市兵衛宅はこのたびは大いに傾き、蔵は壁落 ち瓦落ち大破損にあいなり。	四日市	5+
続地震雑纂・四日市伊達右太 右衛門よりの書状・12月20日	141	当地は、六月の地震より余程軽く覚え候。さりながら 少々潰家など出来。四日市潰家11、半潰145、死傷なし。	四日市	5+
続地震雑纂・四日市佐具良村 佐野佐吉郎より書簡・11月24 日	141	古い建物分少し揺り傾き、谷谷田地欠け、当村15-16カ 所。割れ目より赤泥噴き出し、3、4カ所。山落ち橋 落ち、堤路揺り割れ数カ所。建物損じは無し。	佐具良村	5-
続地震雑纂・鳥羽広野破魔助 書状、11月13日	146	御城外郭総崩れ。頼母屋敷も大荒れ	鳥羽	6-
続地震雑纂・児玉左太夫親類 鳥羽家中松田氏より書状	147	とても家中にまかりありがたき地震。圧死の難避け大 道へ飛び出す。	鳥羽	5-
続地震雑纂・児玉左太夫親類 鳥羽家中松田氏より書状	147	床上三4尺ほど潮入	鳥羽	津波
続地震雑纂・児玉左太夫親類 鳥羽家中松田氏より書状	147	岩崎下通りの家残らず潮に浸り申し候	鳥羽・岩崎下通り	津波
続地震雑纂・児玉左太夫親類 鳥羽家中松田氏より書状	147	第二波、床下四五寸にて留まる。その後二波来た。安 心して山から下り始めたこと（次項）	鳥羽	津波
続地震雑纂・児玉左太夫親類 鳥羽家中松田氏より書状	147	そののち、東北に雷のごとき音。皆逃げ支度したとこ ろ、前の十倍の津波。平地の家は棟も見えず。この波 に岩崎海辺の屋敷向き残らず流失。山手の拙者（松田 氏）屋敷も潮入となる。	鳥羽	津波
続地震雑纂・児玉左太夫親類 鳥羽家中松田氏より書状	147	丸の内掛塀一カ所も残らず流失。町方流失七八軒	鳥羽	津波



文献名	頁	地点名、事項	現代地名	震度現象
続地震雑纂・射和竹川氏より来書12月11日	147	志摩57カ村のうち、潮入らぬ村23。流失821（12カ村にて）、一カ村、皆流。	鳥羽	津波
続地震雑纂・射和竹川氏より来書12月11日	147	志摩57カ村のうち、地震潰一カ村、田地過半潰三ヶ村、潮入大破11ヶ村	鳥羽	津波
続地震雑纂・橋村氏賭場行き の節見聞略記	147	楠部から堅神までは倒家・損所なし。	楠部	4
続地震雑纂・橋村氏賭場行き の節見聞略記	147	楠部から堅神までは倒家・損所なし。	堅神	4
続地震雑纂・橋村氏賭場行き の節見聞略記	147	堅神から鳥羽まで津波で五六町崩れ、古道を通った。	堅神・鳥羽間	津波
続地震雑纂・橋村氏賭場行き の節見聞略記	147	観音寺僧の証言：地震後半時で津波第一波。第一波は寺の松の木少し向こうまで。二の波同様。三の波松の木を超え寺の庭まで、四の潮にて寺、本堂以外残らず流失。ミラノ西の家は東に、東の家は西に流れ。	堅神・観音寺	津波
続地震雑纂・橋村氏賭場行き の節見聞略記	147	（地盤沈下のため）12月まで海の潮観音寺の松まで潮来る。	堅神・観音寺	地盤沈下
続地震雑纂・橋村氏賭場行き の節見聞略記	147	石地藏と手水鉢五六間外の溝へ流れ	堅神・観音寺	津波
続地震雑纂・橋村氏賭場行き の節見聞略記	148	鳥羽は津波の被害を受けた家は多かったが、地震による損じ家は見受けず。ただし御城塀残らず崩れ。	鳥羽	5-
続地震雑纂・橋村氏賭場行き の節見聞略記	148	御城櫓土塀掛塀門、地震にて瓦落ち、破損七カ所（下略）	鳥羽	5-
続地震雑纂・橋村氏賭場行き の節見聞略記	148	鳥羽町、流失家5、潰家2、半潰45、潮押し込み441、流失土蔵1、半潰土蔵2、破損土蔵21、破損家68、潮押し込み土蔵54、溺死2	鳥羽	津波
続地震雑纂・橋村氏賭場行き の節見聞略記	149	鳥羽潮高さ1.5-1.6丈。村方によっては三丈余。あるいは二丈。中には七丈余の山小山を超した村もあり。	鳥羽	津波
続地震雑纂・和具竹内万助話	149	家数400軒余の内270軒流失。棟数400余。溺死即死36、遅れて死んだ人8。船400-500艘、20-30艘無事、後は皆流れ	和具	津波
続地震雑纂・和具竹内万助話	149	いったん山へ逃げたが、宅に帰る金銀衣類取りに戻るもの皆々溺死なり。	和具	津波
続地震雑纂・和具竹内万助話	149	越賀、70軒流失	越賀	津波
続地震雑纂・和具竹内万助話	149	御座、浜島、なせ田、片田、船越、波切、国府、別条なし	志摩国	津波
続地震雑纂・伊勢南島古和浦 津波の事	149	大地震につき各居宅へ走り帰らむとするやいなや大地より泥噴き出し・・・	古和浦	(5+)
続地震雑纂・伊勢南島古和浦 津波の事	149	六月の地震の時にも津波をおそれ山に逃げ七八日山住居する。地震の時津波が来ると子供も立ち騒いで山に逃げたため大津波にも死人少なくなる。死人は老人四五人。	古和浦	津波
続地震雑纂・伊勢南島古和浦 津波の事	149	産土神天満宮、海岸にあったが波も来ず無事	古和浦	津波
続地震雑纂・伊勢南島古和浦 津波の事	150	人家250軒の浦方皆々流失。わずかに20軒ばかり残る。神職、当時の庄屋の家、寺院など七八軒は敷居高き故無事。残った七、八軒いづれも大破。	古和浦	津波
続地震雑纂・伊勢南島古和浦 津波の事	150	地震は山田より穏やかに在りし由	古和浦	5+
続地震雑纂・一之木町（現伊勢市）多田善右衛門之話	150	甲賀の内橋本にてたところ高潮にて湿りあり。二の波一丈ほどでたいしたことなし。浜田で三の波に出会い、山に逃げた。この波二丈ほどもあり。山の下人の乳の下程まで浸水。	甲賀浜田	津波

文献名	頁	地点名、事項	現代地名	震度現象
続地震雑纂・甲賀村書上。	151	大地震の節は、土蔵古屋など捻り潰し、家々瓦落ち、破損などこれ有り。	甲賀	5+
続地震雑纂・甲賀村書上。	151	津波は五度。三度目引くこと大きく、60-70間よけいに引き去る。北東の方向より白波十重二十重にうち重なり、屋のごとく押しかけ、一時に村中一面に押し流し。	甲賀	津波
続地震雑纂・甲賀村書上。	151	津波磯際にて三丈五尺。波先17-18町来たり	甲賀	津波
続地震雑纂・甲賀村書上。	151	流死11、流家134、流隠居59、流納屋128、流土蔵30、大潰家11、半潰29、半潰隠居6、半潰納屋5、半潰土蔵4、流失地蔵堂1、流毘沙門堂1	甲賀	津波
続地震雑纂・熊野長島江見舞いに参り候人帰宅につき話の伝聞	152	長島800軒の所、80軒残る。死23人。沖1里の大島水に埋もれて見え、人々山に逃げ上って助かる。家に布団など取りに行った者溺死。	紀伊長島	津波
続地震雑纂・西宮神職庄司源之進話、木之本（熊野市）にあり	152	尾鷲で逃げ遅れた夫婦の夫、木の枝にとりついて島に着き漁船に助けてもらう。木の枝を妻の腕と錯覚した。	熊野市	津波
続地震雑纂・西宮神職庄司源之進話、木之本（熊野市）にあり	152	島勝浦6～10歳の子供津波に海岸から6、7町奥の氏神に流れ着き皆無事。日比靈験神社のある寺院は熊野で一カ所も流れず。	島勝浦	津波
続地震雑纂・妙見町徳田又右衛門熊野より来書	152	四方山鳴り出、煙立ち大地震。	熊野市	5+
続地震雑纂・妙見町徳田又右衛門熊野より来書	152	本宮より請川まで山崩れ込み通船止まる	本宮	5+
続地震雑纂・妙見町徳田又右衛門熊野より来書	153	三浦、家数70軒のところ24軒残る。溺死5。筆者山に逃げ無事	三浦	津波
続地震雑纂・妙見町徳田又右衛門熊野より来書	153	尾鷲、800軒ばかりの所150軒残り、残り流失。溺死500人余。	尾鷲	津波
続地震雑纂・妙見町徳田又右衛門熊野より来書	153	三木里。浜辺の家皆流失	三木里	津波
続地震雑纂・妙見町徳田又右衛門熊野より来書	153	曾根、皆流れ	曾根	津波
続地震雑纂・妙見町徳田又右衛門熊野より来書	153	二木島、八分通流失	二木島	津波
続地震雑纂・妙見町徳田又右衛門熊野より来書	153	新鹿、大泊両村とも八分通り流失	新鹿	津波
続地震雑纂・妙見町徳田又右衛門熊野より来書	153	新鹿、大泊両村とも八分通り流失	大泊	津波
続地震雑纂・長島浦並ニ浦々、地震聞書	153	大地震皆々大いに驚き、往来へ出、家ごとに火桶火鉢取りだし	紀伊長島	4
続地震雑纂・長島浦並ニ浦々、地震聞書	153	6月地震の節山へ逃げたが、津波がなかったので今度は浜へ逃げたものもいた。そのうち病人、盲人は置かれて死者場でた。死者は23-24人である。	紀伊長島	津波
続地震雑纂・長島浦並ニ浦々、地震聞書	153	長島は家数は900余軒。400-500軒流れ。残った家も床から7-8尺高潮上がり。残った土蔵の壁も浸水高さ以下の壁が落ちたものを多く見受けた。	紀伊長島	津波
続地震雑纂・長島浦並ニ浦々、地震聞書	153	二郷村は地震と聞くより津波あらむかと大勢逃れ、橋のところに津波が来て橋流れ候故18人怪我。二郷村は集落が2つに分かれており、1つの集落は地続き、1つの集落は津波が来れば離れ島同様に孤立する位置にある。細い土橋しか逃れるすべがなくなる。地震の直後逃げだそうとした若者は船に乗って遭難した。かえって逃げる事の出来なかった老人子供は、集落が助かったためかえって無事であった。家損じ破一軒もなかった。	紀伊長島町二郷	津波

文献名	頁	地点名、事項	現代地名	震度現象
続地震雑纂・長島浦並二浦々、地震聞書	154	桂浦、だいたい残らず流失。屋敷跡へ大池出来。人氣が人少々あり。	紀伊長島町桂浦	津波
続地震雑纂・長島浦並二浦々、地震聞書	154	三浦、過半流失。人損じ少々有り。	紀伊長島町三浦	津波
続地震雑纂・長島浦並二浦々、地震聞書	154	海野、古里辺は少々の痛み	紀伊長島町海野	津波
続地震雑纂・長島浦並二浦々、地震聞書	154	海野、古里辺は少々の痛み	紀伊長島町古里	津波
続地震雑纂・長島浦並二浦々、地震聞書	154	白浦も100軒ばかりのところ、40軒ばかり残る。残りの家も棟ばかりのこのみで大損じ。無難の家は10軒ほど	紀伊長島町白浦	津波
続地震雑纂・長島浦並二浦々、地震聞書	154	尾鷲、人家だいたい残らず流失。一損じ400人ばかりのよし。	尾鷲	津波
続地震雑纂・長島浦並二浦々、地震聞書	154	長島、地震二、三日前より大いに潮の時刻損じ居由。	紀伊長島	前兆
続地震雑纂・長島浦並二浦々、地震聞書	154	長島、津波は地震がやむと同時に来て、三度あった。一番波にてだいたい人家流れ、二番波真に大。高さ15-16丈。第三の波は大いに軽く。	紀伊長島	津波
続地震雑纂・長島浦並二浦々、地震聞書	154	(紀伊長島) 往来筋の田などは今(12月15日)に至るも二尺ばかり水上がり候を多く見受け候。	紀伊長島	地盤変動
安政元年甲寅十一月四日大湊大地震之事	245	震動で砂煙立つ。潰家ありたるはこのときなり。	伊勢大湊	5+
安政元年甲寅十一月四日大湊大地震之事	245	五日夕七時半時大地震。昨朝に比ぶれば少々緩やかなり	伊勢大湊	4
嘉永海嘯記	256	尾鷲、地割れ、土蔵瓦落ち、(中略) 所所山崩れ候	尾鷲	5-
北牟婁郡誌・若林多中筆記	259	家の倒れむことを気遣わしくして、裏にでんとせしに水坪の水揺りこぼれ、棚にあるもの転び落ち、薪の積みたるは崩れ	尾鷲	5-
温恭院日記	277	伊勢薦野、地震で陣屋破損、山堤崩、潰家も少なからず	菰野	6-
温恭院日記	277	伊勢龜山、城内外、櫓多門、家中郷とも大破	菰野	5+
温恭院日記	277	近江水口、居城その他家中町郷共大破	水口	5+
温恭院日記	277	伊勢神戸居城所破損、其の外家中町郷とも悉く大破	鈴鹿市	5+
虫倉後記・大阪地震津波荒増日記写	305	四日市人家30軒ばかり潰	四日市	6-
書付留	79	近江膳所地震強、本丸湖水高堀ニカ所、三ノ丸水門南方の建物倒。家中在町とも少々ずつ破損。牛馬の損なく往還支障なし	大津市膳所	
御城書	83	近江水口、城内家中町郷悉く破損。2000両拝借	水口	6-
御城書	86	膳所、居城本丸、天守、住居、櫓、多門、その他大破、3000両拝借	大津市膳所	5+
続地震雑纂・京都地震	115	大津、格別のことも無し。	大津	4
続地震雑纂・永田愍助大坂よりの書状	116	大津余程の地震人々騒ぎ、少々の破損有り。	大津	5-
二條家内々番所日記	76	今朝五ツ時大地震	京都二條家邸宅	4
二條家内々番所日記	76	京都御所に参内	京都御所	4
脇坂安宅日記	76	辰下刻、火事装束で桂皇居へ駆けつける	京都脇坂家邸宅	4
脇坂安宅日記	76	桂皇居、変わりなし	京都桂宮	3
脇坂安宅日記	76	新待賢院で庭へ避難	京都新待賢院	4
脇坂安宅日記	76	京都御所損所なし	京都御所	4
脇坂安宅日記	76	知恩院別状無し	京都知恩院	4
脇坂安宅日記	76	養源院御霊所別状無し	京都養源院	4

文献名	頁	地点名、事項	現代地名	震度現象
続地震雑纂・京都地震	115	京都長くゆり、一統残らず表へ駆け出す。損じはなし。	京都	4
続地震雑纂・京都地震	115	伏見、京都同様。	伏見	4
世直り草紙	281	丹波園部、篠山近在破損多き由	京都府園部	5+
続地震雑纂・永田愍助大坂より之書状	116	奈良尼ヶ辻、浪花同様	奈良尼ヶ辻	5-
世直り草紙	281	奈良、春日大社石灯笼多く損ず。東大寺境内同様	奈良・春日大社	5-
世直り草紙	281	奈良、春日大社石灯笼多く損ず。東大寺境内同様	奈良・東大寺	5-
御城書	83	紀州表余程之地震	和歌山	4
田辺町役場記録	90	小さき地震しばしば揺り	紀伊田辺	3
田所氏記録	91	大地震、所所土塀崩。古い納屋潰	紀伊田辺	5-
田所氏記録	91	汐も常よりは大いに高く、忽ち退き忽ち来る。一同戦慄するも何事も無し。	紀伊田辺	津波
嘉永七年甲寅地震海翻之記	95	大地震揺ることしばらく。人々家を出て道路に立つ。	南部	4
続地震雑纂・妙見町徳田又右衛門熊野より来書	153	浜宮、宮と寺のみ残る。人家皆流失。溺死五人	紀伊勝浦市那智	津波
続地震雑纂・妙見町徳田又右衛門熊野より来書	153	古座浦、60軒流失	古座	津波
続地震雑纂・妙見町徳田又右衛門熊野より来書	153	入鹿組無難。山の石崩れあり。	新宮	5+
続地震雑纂・妙見町徳田又右衛門熊野より来書	153	新宮、潰家相見え申し候	新宮	5+
新宮町雑記	189	所所土蔵土塀石灯笼残らず倒れ、	新宮	5+
新古見覚	210	和歌山、大地震揺り始め、六月より強	和歌山	4
和歌山県誌	212	余程の揺り	和歌山	4
安政見聞録・広村養源寺所蔵	236	広村、瓦飛び、壁など崩るる程	和歌山県広川町	5-
浜口梧陵伝	266	四日四つ時強震す。	和歌山県広川町 広	4
書付留	79	河内国茨田郡、摂津島上郡、島下郡地震強郷	大阪市	5+
鈴木大雑集	81	大阪、四日大地震	大阪	4
安政年表	82	大阪に南西方向に奇妙な赤雲でる	大阪	現象
大屋祐義日記	90	河内国秋元家領分（丹南郡、丹北郡、八上郡）、大地震	河内丹南	4
嘉永七年甲寅諸国地震記・紙屋長左衛門書状	98	市中大騒動。蔵建家、所所崩れ。願教寺対面所崩れ、その他建て屋崩れ候。	大阪・願教寺付近	5+
嘉永七年甲寅諸国地震記・喜宝丸太兵衛書状	101	四日、昼四つ時当所大地震にて、市中町屋数多崩れ、怪我人もこれ有り候。	大坂	6-
嘉永七年甲寅諸国地震記・京屋弥兵衛書状	98	市中に大損、大潰れ家凡そ200軒余。その他神社仏閣、大損じこれあり。	大坂	6-
嘉永七年甲寅諸国地震記・大坂屋定次郎書状	100	(大阪城の) 御城内外御役宅別状なく少々損所出来	大阪城内外	5-
続地震雑纂・永田愍助大坂より之書状	115	大坂北御堂筋にて存外の地震。六月より大分強き方。歩行できかね候位。少々ずつ破損所有り。古い家に破損所あり。筆者は三四カ所観察。	大坂北御堂筋	5-
続地震雑纂・山本屋伊兵衛書状	117	四日辰下刻大地震にて当六月より大分手強く、(中略、五日の地震の記述の後) 昨日よりの地震にて町々に少し傾く所有り。古家などは潰れ候ところも見かけ・・・	大坂	5-
地震海嘯正説録	160	大坂、四日朝五つ半大地震驚き入り	大坂	4
三災録	183	大坂、御屋敷内も一時に相崩れもうすべき勢い	大坂	4
世直り草紙	279	大坂、4日朝辰半刻大地震揺りだし、凡そ半刻に及ぶ。大坂市中騒動。船場塩町佐野やはし角さのやたばこ問屋大壁塀崩れ、3歳の幼児乳母とも即死	大坂	5-
世直り草紙	279	大坂、座摩社表門石鳥居おれる。社内絵馬堂石灯笼多く損ず。	大坂	5-

文献名	頁	地点名、事項	現代地名	震度 現象
世直り草紙	279	大坂、天王寺引導鐘骨堂の石灯籠多く損ず。	大坂天王寺	5-
世直り草紙	279	大坂、清水寺ぶたい崩るる。	大坂天王寺	5+
世直り草紙	279	大坂、寺町浄国寺本堂崩れる。	大坂寺町	5+
虫倉後記・大阪地震津波荒増日記写	302	震小半時ばかり、御用場裏一町半南の庫裏町潰家より出火。御用場無事だが所々破損	大阪御用場	5-
虫倉後記・大阪地震津波荒増日記写	305	天王寺清水寺舞台崩落。本堂いささかも損せず。	大阪天王寺	5-
書付留	79	尼崎、大地震につき所所潰家、損所多数	尼崎	6-
御城書	86	尼崎、居城住居櫓多門、大破2000両拝借	尼崎	5+
嘉永七年甲寅諸国地震記・岡元四郎雲州地震之荒増	103	龍野、地震	龍野	3
続地震雑纂・伊丹中村孫四郎書状	119	四日、五日稀なる大地震（中略）伊丹にてもいまだ野辺に皆々仮屋を作り住居いたし候も有り	伊丹	4
続地震雑纂・福井氏家来桑原朔二阿州徳島より書状	122	（垂水にて）地震これあり。	神戸垂水	3
世直り草紙	281	丹波園部、篠山近在破損多き由	兵庫県篠山	5+
嘉永七年甲寅諸国地震記・岡元四郎雲州地震之荒増	101	同四日朝五ツ半頃、地震強候共、損所等これ無し	松江	4
続地震雑纂・岡山吉野屋平助書状	120	四日朝五つ時過ぎ、引き続き五日夕七つ時地震烈しく。当地町方はさしたる損じもなく・・・	岡山	4
鈴木大雑集	81	広島、四日辰刻より大地震	広島	4
三災録	183	徳島大地震	徳島	4
徳島県富岡町誌	194	領家の80歳の森虎三の話。揺れて立っておられん。	阿南市領家	4
続地震雑纂・橋村家来内海只輔讃州より書状	120	（多度津）四日朝五ツ時分地震。格別強きことはこれ無し。	多度津	3
書付留	77	伊予吉田地震折々やまざ	伊予吉田	3
続地震雑纂・西岡篤三郎大坂よりの書状	125	今治は四日の地震は軽く	今治	3
続地震雑纂・土州高知伊勢舎より安田由助へ来簡	123	当月四日より大地震に御座候。	高知	4
三災録	167	高知城	高知城	5-
三災録・谷脇茂実日記	167	高知、稀なる地震、家の傷とはならず。土蔵の壁など少々割れたり。	高知	4
三災録	177	柏島、四日朝地震、さしたる事も無し。軒の瓦なども落ちず	柏島	3
三災録	177	柏島、五日、潮の差し引き入り両日前から	柏島	津波
利岡清左衛門記録	189	須崎、相撲興行へ行く途中小さき地震有り	須崎	3
大変略記	194	土佐市宇佐、地震有り	宇佐	3
御城書	87	松平市正居城住居大破、石垣崩所有り2000両拝借		5+